

異邦人の完成

アミール・ツアルファティ

- 私たちは今日、異邦人の時代に生きているのか？ -

https://youtu.be/gi_AoNYuXx8

今夜のメッセージのタイトルは、「異邦人の完成：なに、いつ、なぜ」。皆さんの中に、異邦人は何人おられますか？全員の手が上がっていないですね。あなたがた異邦人の中には…（笑）、いいですか。私はなにも皆さんのことを悪く言うつもりはありませんから。皆さんの中で異邦人の方は？手を挙げてもらえますか？（挙手）結構です。ユダヤ人のジョークですが、異邦人は小売価格を支払うために開発されました。分かっています。分かっています…（笑）私は…。聞いてください。2人のイスラエル人がニューヨークの街を歩いていました。彼らは教会の外にある看板に目を留めます。「キリスト教に改宗する人には賞金\$100」2人のイスラエル人は顔を見合わせて、そのうちの1人が言います。「俺は入るぞ」もうひとりが言います。「気でも狂ったのか。他の宗教に改宗するなんて」すると、「俺は改宗するつもりなんかない。改宗するふりをして100ドルもらったら、とんずらするのさ」「好きにしろ。俺は行かないぞ」そのイスラエル人が入って行って、10分たち、20分、30分、45分たつて、彼はやっと出てきます。そこで彼の友人が聞きます。「それで、お金はもらえたのか？」すると、その友は言います。「お前たちユダヤ人は、お金のことしか考えないんだな。フンッ！」（笑）タイトルは『異邦人の完成』です。

ローマ人への手紙11章25節から27節を読んでみましょう。

兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれている通りです。『救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。』

（ローマ11章25節から27節）

明らかに、ここでの救いは罪の赦し、罪が取り去られることを意味します。明らかにはっきりと分かるのは、それがイスラエルとの神の契約の一部であること。しかしそれは、絶対に罪の赦しなくしては、あり得ません。それははっきりとしています。また、使徒パウロは、ユダヤ人としてローマにある教会へ手紙を書いています。ちなみにその教会は、ユダヤ人と異邦人の両方で構成されています。パウロは彼らにとっても面白いことを言っています。彼は言います。

「兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい」

「奥義」のギリシャ語ですが、「奥義」という語はギリシャ語で「mustérion（ミステリオン）」です。

「mustérion（ミステリオン）」の意味は、「神のご計画。かつて隠されていたが、福音とそれに関する要素において、今や明らかにされている。一般的にキリスト教の啓示、キリスト教の啓示の特定の真理や詳細」

つまり、なにか、かつては隠されていたが、今や明らかにされたもののことです。今や、ついにそれを理解します。私たちにはっきりと分かるのは、異邦人の完成が、イスラエルの救いと関連していることです。その2つは相伴います。一方は、その他方がまず最初に起こるまで、起こり得ません。それはとても興味深いのです。多くの人が勘違いしていますから。では、「異邦人の時」は、実際に、いつ始まったのでしょうか？

まず第一に言わせてください。この世の初めから、すべての人々に対する神の愛に関して、神は決して、どこかの国を他の国よりも好まれるということはありませんでした。聖書はこう述べています。

ローマ書1章20節から25節

神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。

(ローマ1章20節)

だれひとりも。

というのは、彼らは、神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからです。彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり、不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたちに似た物と代えてしまいました。それゆえ、神は、彼らをその心の欲望のままに汚れに引き渡され、そのために彼らは、互いにそのからだをはずかしめるようになりました。それは、彼らが神の真理を偽りと取り替え、造り主の代わりに造られた物を拝み、これに仕えたからです。造り主こそ、とこしえにほめたたえられる方です。アーメン。

(ローマ1章21節から25節)

これは、今日のことを描写しているようではありませんか？

ヨハネ1章10節から13節

この方はもともとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。この方はご自分の国に来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ神によって生まれたのである。

(ヨハネ1章10節から13節)

ローマ1章16節から17節

私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。『義人は信仰によって生きる。』と書いてある通りです。

(ローマ1章16節から17節)

ですから、一番最初から神ご自身、そして神がこの世界をどのように創造されたか、作られたか、それは神がおられることを人々が理解するのに十分でした。「彼らに弁解の余地はないのです」と聖書は述べています。しかし、創世記におけるある時点で、神はひとつの国民を選び、その国民を通してご自身の愛とご自身のあり方を全世界に示すことを決められました。神はイスラエルを通して働かれるたびに、「世は私が主であることを知るであろう」と言われます。そして非常に面白いことに、歴史のある時点で、また、何かが起こります。使徒の働き13章。

次の安息日には、ほとんど町中の人々が、神のことばを聞きに集まって来た。しかし、この群衆を見たユダヤ人たちは、ねたみに燃え、パウロとの話に反対して、口ぎたなくののしった。そこでパウロとバルナバは、はっきりとこう宣言した。

(使徒13章44節から45節)

— ここに注目してください。 —

『神のことばは、まずあなたがたに語られなければならなかったのです。』 (使徒13章46節)

パウロは非常に明確に言いました。神のなさることには、やり方があり、順序があることを私は知っています。最初にユダヤ人へ。ユダヤ人が優れているからではありません。なぜなら、後にパウロはローマ2章で、こうも言っているからです。

患難と苦悩とは、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、悪を行うすべての者の上に下り（ローマ2章9節）

良いものだけではないのです。しかし、パウロは理解していました。

神のことは、まずあなたがたに語られなければならなかったのです。しかし、あなたがたはそれを拒んで、自分自身を永遠のいのちにふさわしくないものと決めたのです。見なさい。私たちは、これからは異邦人のほうへ向かいます。

(使徒13章46節)

まあ、みなさんには、パウロの気持ちが想像できますか？自分の兄弟姉妹たちを救いたいと切望しています。彼はローマ書の中でこうも言っています。

この私がキリストから引き離されて、のろわれた者となることさえ願いたい。もしそれが私の同胞、肉による同国人を救うことができるなら、私はそうしていたでしょう。

(ローマ9章3節)

しかしパウロは、私たちが誰か別の人のために死ぬことができないのを理解しています。その人が信じなければなりません。他の人のために信じることはできないのです。

しかし、あなたがたはそれを拒んで、自分自身を永遠のいのちにふさわしくない者と決めたのです。見なさい。私たちは、これからは異邦人のほうへ向かいます。なぜなら、主は私たちに、こう命じておられるからです。『わたしはあなたを立てて、異邦人の光とした。あなたが地の果てまでも救いをもたらすためである。』異邦人たちは、それを聞いて喜び、主のみことばを賛美した。そして、永遠のいのちに定められていた人たちは、みな、信仰に入った。

(使徒13章44節から48節)

すごいですね。

では、尋ねましょう。彼ら（ユダヤ人）がつまずいたのは倒れるためなのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。

(ローマ11章11節)

いいですか。神には間違えることはできません。神はご自分の御名のために、すべての悪いことを良いことのために用いられるのです。興味深いのは、

もし彼らの違反が世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らの完成は、それ以上の、どんなにかすばらしいものを、もたらすことでしょう。

(ローマ11章12節)

「完成」ということばが再びここにあります。ここではユダヤ人のためのものです。

そこで異邦人の方々に言いますが、私は異邦人の使徒ですから自分の務めを重んじています。そして、それによって何とか私の同国人にねたみを引き起こさせて、その中の幾人でも救おうと願っているのです。もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることではなくて何でしょう。
(ローマ11章13節から15節)

パウロは、異邦人と、彼らの受け入れられることについて語るのに、「完成」という言葉を使用していますが、それと同じように、彼はまた、時が来ると、ユダヤ人が、その「完成」に達し、再び受け入れられることになる、と言っています。イエスはルカ21章で、オリーブ山におられた時、弟子たちにオリーブ山の説教をなさいました。終わりの時代についての驚くべき教えです。イエスは言われました。

その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。(ルカ21章23節)

ちなみに、ここでイエスは、イスラエルの民に語っておられます。オリーブ山の説教は、イスラエルの国全体としてのイスラエルの民に対するイエスの嘆願であり、後には、教会としての弟子たちに対するものとなっています。2つの異なるものです。その特定のくだりにおいては、ユダヤ人に語られて、

**その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。この地に大きな苦難が臨みこの民に御怒りが望むからです。
(ルカ21章23節)**

イエスは間違いなく、大患難の描写をされています。

人々は、剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれ、異邦人の時の終わるまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされます。

(ルカ21章24節)

イエスは異邦人の完成について、同じもののお話を話しているわけではありません。イエスは言われます。「エルサレムは異邦人に踏み荒らされます」イエスには、「その時が完成するまで」と言うこともできました。そうではなく、イエスは「異邦人が主を受け入れる時が終わる（完成する）まで」と言われます。

ローマ人への手紙11章30節から36節

ちょうどあなたがたが、かつては神に不従順であったが、今は、彼らの不従順のゆえに、あわれみを受けているのと同様に、彼らも、今は不従順になっていますが、それは、あなたがた[異邦人]の受けたあわれみによって、今や、彼ら自身もあわれみを受けるためなのです。なぜなら、神は、すべての人をあわれもうとして、すべての人を不従順のうちに閉じ込められたからです。ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょうか。そのさばきは、なんと知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りがたいことでしょうか。なぜなら、だれが主の御心を知ったのですか。また、だれが主のご計画にあずかったのですか。また、だれが、まず主に与えて、報いを受けるのですか。というのは、すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。どうか、この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。

(ローマ11章30節から36節)

一番最初、創世記3章ですが、ここで神が選ばれたのがユダヤ人ではないことが分かります。神が救いたかったのは人類でした。人類は、決してこんなに不従順になるように造られたのではありません。しかし、神は私たちに自由意志をくださいました。ちなみに、それがなければ、あなたは決してだれかを愛することができません。自由意志がなければ、愛はありません。神は愛です。自由意志がなければ、あなたは神を信じることはできません。「神はなぜ悪をつくったのですか?」と質問する人たちがいますが、違います。神が悪をつくりだしたわけではありません。神はあなたに自由意志を与えられました。あなたが悪を選んだのです。同様に、あなたには善を選ぶこともできました。事実、神はあなたに言われました。「いのちを選びなさい!ここに、わたしはこの2つのものをあなたの前に置く。ほら、ここだ」

さて、神である主が創られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は本当に言われたのですか。」女は蛇に言った。『私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。しかし、園の中央にある木の実について、神は、「あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけなからだ。」と仰せになりました。』

(創世記3章1節から3節)

神は彼らに警告されました。「触れてもいけない。あなたが死ぬことになる」神は、いつくしみ深い神です。「わたしはあなたたちに死んでほしくない。それに触れるんじゃないぞ。それを食べるんじゃないぞ」

そこで、蛇は女に言った。『あなたがたは決して死にません。あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。』

(創世記3章4節から5節)

その時以来、サタンは人類に言い続けているのです。「あなたがたは神です。あなたがたは神のようになれる。私に従えば、私は一彼とは違って一、私はあなたがたに秘密を明らかにしよう。すべてが見えるように、私はあなたがたに光を与えよう。彼らが集まって最初にするとは何でしょう？」

創世記11章

さて、全知は一つのことば、一つの話しことばであった。そのころ、人々は東のほうから移動して来て、シヌアルの地に平地を見つけ、そこに定住した。彼らは互いに言った。『さあ、レンガを作ってよく焼こう。』彼らは石の代わりにれんがを用い、粘土の代わりに瀝青を用いた。そのうちに彼らは言うようになった。『さあ、われわれは町を建て、頂が天に届く塔を建て、名をあげよう。われわれが全地に散らされるといけないから。』

(創世記11章1節から4節)

「我々は」、「我々が」、「我々は」です！

そのとき主は人間の建てた町と塔をご覧になるために降りて来られた。(創世記11章5節)

創世記3章で、主が降りた来られた時のようです。人間の建てた町と塔をご覧になるために降りて来られた。

主は仰せになった。『彼らがみな、一つの民、一つのことばで、このようなことをし始めたのなら、今や彼らがしようと思うことで、とどめられることはない。さあ、降りて行って、そこで彼らのことばを混乱させ、彼らが互いにことばが通じないようにしよう。』こうして主は人々を、そこから地の全面に散らされたので、彼らはその町を建てるのをやめた。それゆえ、その町の名はバベルと呼ばれた。【「バベル」はヘブル語で、「混乱させる」という意味】主が全地の言葉をそこで混乱させたから、すなわち、主が人々をそこから地の全面に散らしたからである。

(創世記11章6節から9節)

そうやって、あなたがた異邦人が…(笑)聞いてください。私はベーコンエッグを目にすると、それを見ると、私にはそれがとてもおいしそうなが分かります。私はそれに水を振りかけて、そして、こう言います。「おまえは鶏肉だ。おまえは鶏肉だ。おまえは鶏肉だ」

この世界とその中にあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手でこしらえた宮などにはお住みになりません。また、何か不自由なことでもあるかのように、人の手によって仕えられる必要はありません。神は、すべての人に、いのちと息と万物とをお与えになった方だからです。神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに決められた時代とその住まいの境界とをお定めになりました。

(使徒17章24節から26節)

言っておきますが、国境は神からのものです。サタンは混乱を招くために、国境を根絶したがっています。国境は神からのものです。神は、彼らの住まいの境界をお定めになりました。

これは、神を求めさせるためであって、もし探り求めることでもあるなら、神を見いだすこともあるのです。確かに、神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはおられません。私たちは、神の中に生き、動き、また存在しています。あなたがたのある詩人たちも『私たちもまたその子孫である。』と言ったとおりです。

(使徒17章27節から28節)

パウロはアテネの真ん中で、異邦人たちに語っているのです。最もプライドの高い異邦人です。彼らは自分たちが何でも知っていると思っています。彼らは頭がよくて、教育のある哲学者です。パウロは彼らに言っています。「そのような無知の時代を…」

そのように私たちは神の子孫ですから、神を、人間の技術や工夫で作った金や銀や石などの像と同じものと考えてはいけません。神は、そのような無知の時代を見過ごしておられましたが、…

(使徒17章29節)

2000年間、神はすべての異邦人のペテンを見過ごされました。彼らは金や石や木で作られた神を崇拜した方がよいと決断しました。

神は見過ごされましたが、今は…[「今は」と言ってください] どこでもすべての人に悔い改めを命じておられません。

(使徒17章30節)

もう一度言いましょう。「今は、どこでも すべての人に悔い改めを命じておられます。教会が悔い改めについて教えていないとは、なんと悲しいことでしょうか。彼らがイエスを本質的に理解するために、神は、どこでもすべての人に、最初にそれを命じておられるのです。

なぜなら、神は、(使徒17章31節)

神は日を決めておられるのです。

お立てになったひとりの人により義をもってこの世界をさばくため、日を決めておられるからです。

(使徒17章31節)

神は義をもって世界をさばかれるんですよ。私は、とても長い時間祈っていました。「神は、お立てになったひとりの人により、義をもってこの世界をさばく」とは、どういう意味でしょうか。つまり、神はイエスによって世界をさばかれます。将来に、です。義をもって。その時、私は初めて千年王国というものをきちんと理解しました。私はいつも神に、「どうして、私たちはもう1000年間、頑張らなければならないのでしょうか」と尋ねていたからです。

「はいはい。大患難の7年間ですね。はい。私たちはまた戻って…」単純にすべてのものを新しくすることはできませんか？新しい天国、新しい地球、新しいエルサレム。なぜ、また1000年も？そして、私は理解したのです。この1000年間は、その1000年の終わりに神のさばきが義をもって行われるその理由を、神が示されるものなのだと。なぜなら、1000年の終わりには、つまり、サタンが1000年間、牢に縛られた後、地上には、もはやサタンや悪魔の存在がなくなった後、イエスご自身が、物理的に全世界の政治的、軍事的、宗教的リーダーとなり、ダビデの王座に着かれるのです。エルサレムで。神殿で。これほど素晴らしい事はありません。それでも1000年が終わる時、サタンは少しの間、解き放たれます。すると、どうなると思いますか？人々は地の四方からサタンに加担し、その数は海辺の砂のようです。何のために？神と戦うために。その時に、神はこう言われます。「わたしは義をもって世界をさばいているのだ。わたしは1000年間を与える。それが終わりだ」なぜなら、エレミヤが言うように、「人の心は何よりも陰険で直らない」(エレミヤ17章9節)からです。

そこで神は2種類の人を任命されました。ヨナとバルヨナ・シモンです。今日のナザレ地方出身の預言者ヨナと、バルヨナ・シモンです。興味深いことに、シモン・ペテロが彼の名ですが、イエスがカエサリア・ピリポで彼に話しかけられた時、イエスは言われました。「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です」二人の男性がいます。二人はガリラヤ地方のユダヤ人です。その二人は、良い知らせを宣べ伝えるという任務を与えられました。その知らせとは、まずは悔い改め、それから救いです。だれに？異邦人に。そして、その二人は初めは「いやだ」と言いました。そのうちの一人は、「いやだ」と言いましたが、この大きな魚の臭い胃液に3日間さらされたことが、彼に「はい」と言わせたのかもしれませんが。もう一人が「いやだ」と言ったのは、彼の見たものが、全く食欲をそそらなかつたからです。ヨナ、そしてシモン・バルヨナ。ガリラヤ地方のユダヤ人ふたりです。彼らの従順が世界を変えました。聞き従うことは、確かに、いけにえにまさります。

ヨナ1章2節

立って、あの大きな町ニネベに行き、（ヨナ1章2節）

それは、当時の世界で最大の都市でした。今日のイラクにあるモースルです。

あの大きな町ニネベに行き、これに向かって叫べ。彼らの悪がわたしの前に上って来たからだ。

（ヨナ1章2節）

使徒11章18節

人々はこれを聞いて沈黙し、『それでは、神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ。』と言って、神をほめたたえた。

（使徒11章18節）

何かが起こりました。時が来ていました。ユダヤ人がイエスを拒否し、異邦人がイエスを受け入れ始めた瞬間から、「異邦人の時」という時代が始まりました。興味深いです。これはダニエル9章の預言で、まさに「69週目」と「70週目」と呼ばれるものの間です。これがギャップです。ギャップがあるのはこのためなんです。これは、異邦人のための期間なのです。なぜなら、ダニエルの預言の対象は異邦人ではなかつたからです。

あなたの民とあなたの聖なる都については、七十週が定められている。（ダニエル9章24節）

それはイスラエルのことです。神は再びイスラエルを取り扱われます。70週目が始まる時に、もう一度。それが最後の7年です。大患難はイスラエルの救いのためです。私はいつもそれを言っています。しかし、その間に…、69週目と70週目の間にギャップがあるのはなぜでしょうか？それが時間だからです。それは預言者が見ることのできなかつた谷です。預言者には、物々が見えます。彼らには物と物の間には何も見えません。彼らには山々の頂が見えますが、谷は見えません。イエスがエルサレムに入った69週目、アルタシャスタによって、エルサレムの壁と神殿の再建のための布告が下されてから、ちょうど173,880日後、一ネヘミヤ記2章に記されている布告です。まさに、きっかりその日に、イエスは預言された通りに彼らの王として、彼らのメシアとして、エルサレムに入られました。そして、彼は断たれました。なにひとつ、彼がしたことのためではありません。そして、神殿は破壊されました。それが69週目です。その後、70週目に、神は再びイスラエルを取り扱われます。それまでは、神が異邦人に差しのばしてくださった恵みの時です。神はかつてそれらの時代を見過ごしておられました。しかし、今は神は世界中のすべての人に悔い改めを命じられます。これだからこそ、パウロが語り、教えていたのは、革命的なメッセージだったのです。ユダヤ人だとか異邦人だとか関係ありません。あなたは人間ですか？「はい」神はあなたに悔い改めよと仰おっしゃっています。あなたは罪人として生まれました。「私は善人です」いいえ、違います！あなたは善人だと思っているが、そうではない。

一つの神殿の崩壊と次の神殿の出現の間です。ところで、今、エルサレムには神殿がありますか？ありませんね。神殿の崩壊はいつでしたか。紀元70年です。描写されている69週目の時から、70週目までずっと、そこでダニエルは

もうひとつの神殿の描写をしています。その二つです。ちなみに、次の神殿の設計図は用意できています。みなさん、ご存じだったでしょうか。神殿研究所は、再び神殿を建てることに専念しています。

パウロは「兄弟たち」と言っています。それは、キリストに従い、神のみことばに従って生きる真の信者のことを意味します。ここでパウロは、未信者を説得しようとしているわけではありません。彼はこう言っています。「兄弟の皆さん、私はあなたがたに話しています。私はあなたがたにこの奥義を説明しています。あなたがたに無知であってほしくないのです」と彼は言いました。無知であることは、この真理を否定し、それから顔を隠すことです。現実から目をそらさないでください。私が教えなかったとは言わないでください。無知にならないでください。お願いします。あなたがたは仲間の信者です。あなたがたは、これを知らなければなりません！ところで、無知は異邦人にだけ当てはまるものではありません。イスラエルにもです。

ローマ10章

兄弟たち。私が心の望みとし、また彼らのために神に願い求めているのは、彼らの救われることです。私は、彼らが神に対して熱心であることをあかしします。しかし、その熱心は知識に基づくものではありません。というのは、彼らは神の義を[何と言っていますか?]知らず（無知で）、自分自身の義を立てようとして、神の義に従わなかったからです。

(ローマ10章1節から3節)

ひとりの罪人に過ぎないのに、自らの行いによって自分の義を確立できると考えるのは無知です。ところで、自分こそ知者だなどと思っははいけません。神はあなたの意見に興味はありません。私だって興味ありません。あなたの意見は。

人の心には多くの計画がある。しかし主のはかりごとだけが成る。(箴言19章21節)

『わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、わたしの道は、あなたがたの道と異なるからだ。一主の御告げ。一天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。』

(イザヤ55章8節から9節)

あなたに聖霊が内住し、神があなたの内におられない限り、あなたは決して神のように考えることはできません。ですから、神はあなたの意見には興味を持っておられません。パウロは、イスラエルが盲目になっていることについて話しています。

ローマ人への手紙11章7節から10節

では、どうなるのでしょうか。イスラエルは追い求めていたものを獲得できませんでした。選ばれた者は獲得しましたが、他の者は、かたくな（盲目）にされたのです。

(ローマ11章7節)

パウロは、ローマの教会の前に、イスラエルが盲目(かたくなに)されたことを認めています。

こう書かれているとおりです。(ローマ11章8節)

そしてパウロは、申命記と詩篇の両方から引用します。

神は、彼らに鈍い心と見えない目と聞こえない耳を与えられた。今日に至るまで。(申命記29章4節)

ダビデも[詩篇69編22節で]こう言います。

彼らの食卓は、彼らにとってわなとなり、網となり、つまずきとなり、報いとなれ。その目はくらんで見えなくなり、その背はいつまでもかがんでおれ。

(詩篇69編22節)

驚きます。彼らが自分たちの心をかたくなにしたので、神が彼らを盲目にされました。イスラエルは、ほぼ国家的に盲目にされた唯一の国です。そして、国家的救いの約束を持っている唯一の国です。

イスラエルはみな救われる。(ローマ11章26節)

なお、ヤシュア・ハ・マシアックを受け入れない限り、彼らはだれひとりとして救われません。彼らの主であり、救い主であるイエス・キリストです。彼がイスラエルの希望です。彼がイスラエルの救世主です。イエスを通してでなければ、だれも父のもとに来ることはできません。イエスが道であり、真理であり、いのちです。イエスはそれをユダヤ人に言われたのです。それから、ここに注目してください。パウロは言います。「イスラエルがかたくな(盲目)になったのは…までであり、」それには有効期限があります。パウロは言います。「そのかたくなさは、定められた特定の時に終わる」それは永遠には続きません。何かが起こります。彼は言います。

——いつまで? 「異邦人の完成のなる時まで」完成です。

完成とは、どういうことでしょうか? たとえば、カップがあるとします。あなたがそれに水を注ぐと、それはずっと一番端まで来ます。そうですね? それだけです。それ以上、注ぐことはできません。それで終わりです。おしまい。起こらなければならなかったことが起こった。それで終わりです。「異邦人の完成」が意味することは、ひとつです。それ以上、救われることはできません。ちなみに、それは彼ら自身の選択によるものです。神がこんなふうを決めるのではありません。「ああ、わたしはこれ以上わたしの王国に異邦人を増やしたくない。彼らはわたしの王国を汚してしまう」違います! 神は世界中のすべての人に悔い改めを呼びかけておられるのです。しかし、ある時点で、反キリストと反キリストの精神…、彼らは完全に盲目にされ、完全にだまされるのです。だから、それ以上はありません。それだけ! だから、もしあなたが少しでも、「私は異邦人だ。明日、携挙があっても、私にはまだチャンスがある。なぜなら患難の最中には、…」と思っているなら、その考えとはオサラバしてください。あなたがいまキリストを受け入れていないのなら、あなたの首が通路を転がっていく恐れがある時に、そうなった時に自分がイエスを受け入れると、あなたは本当に思いますか?

マタイ5章17節

わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思ってはなりません。廃棄するためではなく、成就するために来たのです。

(マタイ5章17節)

イエスは、そう言われました。

ルカによる福音書24章44節

さて、そこでイエスは言われた。『わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。』

(ルカ24章44節)

必ず、全部成就します。「するかもしれない」「するだろう」「するはずだ」ではありません。「必ず!」です。

使徒13章29節

こうして、イエスについて書いてあることを全部成し終えて後、イエスを十字架から取り降ろして墓の中に納めました。

(使徒13章29節)

面白いと思いませんか？磔刑の描写が、聖書の形で、私たちに与えられているのです。彼らはイエスについて書いてあることを全部成し終え、その後、イエスを十字架から取り降ろしました。彼らはイエスの衣についてくじ引きをしなければならなかったり…、まったく、すべてのことです。これらは起こらなければならない。トン、トン、トン、と。どれも飛び越せません。すべてのことが成就されなければならない。そして、彼は言いました。「異邦人の…」ところで、「異邦人」は、国々のことです。ちょっとお話ししますと、正統派のユダヤ教徒は、豚のことを「ブタ」とは呼びません。彼らは「他のもの」という言い方をします。そうなんです。彼らは「豚」とは言いません。「他のもの (the other thing)」と呼ぶんです。そこで私は、イエスが弟子たちに、向こう岸 (the other side) へ行こうと言われたことについて考えています。他の人たち (the other people) が、他のもの (the other thing) を食べる所です。彼らが向こう岸 (the other side) に到着した時、イエスは悪霊ども、レギオンを追い出し、「他のもの (the other thing)」にのり移らせました。だからユダヤ人の考えでは、ほかの人々 (the other people) は、向こう側 (the other side) にいて、他のもの (the other thing) を食べる。だから、私は「他のもの」に水を振りかけるんです。

創世記26章4節

そしてわたしは、あなたの子孫を空の星のように増し加え、… (創世記26章4節)

イスラエルに対し、アブラハムに対して語られます。

あなたの子孫に、これらの国々をみな与えよう。こうして地のすべての国々は、あなたの子孫によって (イスラエルのアブラハムとイサクとヤコブの子孫によって) 祝福される。(創世記26章4節)

ここには明確な分離があります。神はアブラハムに、彼の子孫によって、他のすべての国々が祝福されるようになると告げておられます。

民数記23章。バラムです。皆さんも覚えているでしょう。彼はそこに立っています。バラクは、バラムがイスラエルを呪ってくれると思っています。するとバラムは言います。

岩山の頂から私はこれを見、丘の上から私はこれを見つめる。見よ。(民数記23章9節)

バラムはイスラエルを指しています。

この民はひとり離れて住み、おのれを諸国の民の一つと認めない。(民数記23章9節)

興味深いのは、主が、あなたがイスラエルのオリーブの木に接ぎ木されることについて語られる時、それは、あなたが分離されたことを意味します。取り分けられたのです。それからパウロは言います。「異邦人の完成のなる時まで…」するとすぐに、その直後に、「イスラエルはみな」さて、「イスラエルはみな」とは、どういう意味でしょうか？ここで議論が分かれます。それについて、5万冊の本が出ています。「『イスラエルはみな』とは、どういう意味ですか？」いいですか。私はここに立って、墓穴を掘るつもりはありません。私はただ、ゼカリヤ書13章を引用します。私がゼカリヤ13章を引用する理由は、それがゼカリヤ14章の直前にあるからです。ゼカリヤ13章で聖書は述べています。

全地はこうなる。一主の御告げ。一その三分の二は断たれ、死に絶え、三分の一がそこに残る。わたしは、その三分の一を火の中に入れ、銀を練るように彼らを練り、金をためすように彼らをためす。彼らはわたしの名を呼び、わたしは彼らに答える。わたしは「これはわたしの民。」と言い、彼らは「主は私の神。」と言う。

(ゼカリヤ13章8節から9節)

さて、ほとんどの聖書で13章の後に来る14章は、これはイスラエルに関するものであり、その戦争中の異邦人に関するものだと言っています。これは、大患難の終わりにある最後の戦争の描写です。みなさんが、間違っ

マゲドンの戦い」と呼ぶものです。もしみなさんが「ハルマゲドンの戦争」という言葉を聖書の中に見つけたら、私はそこまでの旅費をお支払いしましょう。その戦いはエルサレムであります。彼らは、ヘブル語でハルマゲドンと呼ばれる場所の谷に、勢力を集結させます。私がみなさんに伝えたいのは、ゼカリヤ書14章16節で、彼が言うことです。

エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の主である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。

(ゼカリヤ14章16節)

だから、イスラエルはみな救われます。その残される三分の一の人たち、神は彼らに火の中を通らせます。そして、大患難を生き残るすべての民、聖書には「エルサレムに攻めて来たすべての民のうち」の「生き残った者」とあります。その後、彼らは毎年エルサレムに行かなければなりません。だから、イスラエルは救われます。イスラエルの救いは約束されています。それはマラキ書で約束されています。それはホセア書、イザヤ書、エレミヤ書で約束されています。新約聖書がそれをでっち上げているのではありません。マラキ3章6節から7節a

主であるわたしは変わることがない。(マラキ3章6節)

神は言われます。「見なさい。今は、イスラエルはわたしに従わないかもしれない。イスラエルは、今、わたしを拒絶するかもしれない。そして、大きな大惨事が来ようとしている」

しかし、主であるわたしは変わることがない。ヤコブの子らよ。あなたがたは、滅ぼし尽くされない。あなたがたの先祖の時代から、あなたがたは、わたしのおきてを離れ、それを守らなかった。わたしのところに帰れ。そうすれば、わたしもあなたがたのところに帰ろう。一万軍の主は仰せられる—

(マラキ3章6節から7節)

ホセア5章15節

彼らが自分の罪を認め、わたしの顔を慕い求めるまで、わたしはわたしの所に戻っていよう。

(ホセア5章15節)

イエスは天に戻っておられます。イスラエルが自分たちの罪を認めるまで。彼の言うことに注目してください。

彼らは苦しみながら、わたしを捜し求めよう。(ホセア5章15節)

イエスはエルサレムに告げられました。「エルサレムよ。あなたがたが、『バルーク・ハバ・ベシエム・アドナイ』と言うまで、あなたがたは今後、決してわたしを見ることはありません。あなたは、主の御名を呼び求めなければなりません。あなたはわたしが戻ってくるよう、わたしを招かねばなりません」

イザヤ45章17節から19節

イスラエルは主によって救われ、永遠の救いに入る。あなたがた恥を見ることなく、いつまでも、はずかしめを受けることがない。天を創造した方、すなわち神、地を形造り、これを仕上げた方、すなわちこれを堅く立てられた方、これを形のないものに創造せず、人の住みかに、これを形造られた方、まことに、この主がこう仰せられる。『わたしが主である。ほかにはいない。わたしは隠れた所、やみの地にある場所では語らなかった。ヤコブの子らに「むなくわたしを尋ね求めよ。」とも言わなかった。わたしは主、正義を語り、公正を告げる者。

(イザヤ45章17節から19節)

わお。エレミヤ書30章7節

ああ。その日は大いなる日、比べるものもない日だ。(エレミヤ30章7節)

彼は大患難を説明しています。彼は言います。

それはヤコブにも苦難の時だ。しかし彼はそれから救われる。(エレミヤ30章7節)

エレミヤ31章35節から36節

主はこう仰せられる。主は太陽を与えて昼間の光とし、月と星を定めて夜の光とし、海をかき立てて波を騒がせる方、その名は万軍の主。『もし、これらの定めがわたしの前から取り去られるなら、一主の御告げ。— イスラエルの子孫も、絶え、いつまでもわたしの前で、一つの民をなすことはできない。』

(エレミヤ31章35節から36節)

言い換えれば、神はこう言われます。「見なさい。イスラエルも異邦人もなくなるのは、月と星と太陽がなくなる場合だけです。それまでは、イスラエルはわたしの前に国であり続け、だれにも彼らを破壊することはできません」それが、私がイラン人に伝えようとしていることなんです。「聞きなさい！ 私たちを攻撃するロケットを作ってもダメ。月や星や太陽を撃つロケットを作ったらいい。なぜなら、それらのものがなくなった時に、やっとイスラエルは、もはや主の前に立たなくなるのだから。」 2000年の後に、神がどのようにイスラエルを扱っているかを見ることによって、「異邦人の時代」が満ちようとしている」と結論づけることができます。皆さんに理解していただきたいのは、2000年の間、ユダヤ人たちは、神が彼らから御顔を隠されたように感じています。特にホロコーストに関してはそうです。そして、神は皆さん方全員のために戸を開かれました。ベーコンを食べる皆さん。神は扉を開いて、言われました。「わたしの民でなかった者が、今やわたしの民である。本当に、あなたがたが悔い改めれば」そしていま、2000年後、神は再びイスラエルに重点を移そうとしておられます。神は彼らを彼ら自身の土地に戻されます。エルサレムは彼らの手に戻っています。ヘブル語が再び話されています。土地は生き返ってきました。彼らは繁栄しています。つまり、私たちは過ぎ去ることのない世代なのです。なぜなら、私たちは、いちじくの木が芽吹くのを見えていますから。

さて、携挙の後に、私たちにチャンスはあるでしょうか？ 私は今、墓穴をさらに深く掘っています。

第2テサロニケ2章9節から12節

不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行われます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。

(第2テサロニケ2章9節から10節)

キリストがここにいた時、異邦人の時があったのに、キリストを拒んだ人たち、まだ福音を^の宣べ伝える時間があった時に、救われるために真理への愛を受け入れなかった人たち。

それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべての者が、さばかれるためです。

(第2テサロニケ2章11節から12節)

私だったら、今、キリストを拒絶しておいて、大患難の最中に救われることを頼りにはしません。その時には、だれもが悪を喜ぶのです。俺たちははずれた。パーッとやろう！

ヨハネの黙示録16章8節から11節

第四の御使いが鉢を太陽に向けてぶちまけた。すると、太陽は火で人々を焼くことを許された。こうして、人々は激しい炎熱によって焼かれた。しかも、彼らは、これらの災害を支配する権威を持つ神の御名に対してけがしごとを言い、悔い改めて神をあがめることをしなかった。第五の御使いが鉢を獣の座にぶちまけた。すると、獣の国は暗くなり、人々は苦しみのあまり舌をかんだ。そして、その苦しみと、はれものとのゆえに、天の神に対してけがしごとを言い、自分の行いを悔い改めようとしなかった。

(黙示録16章8節から11節)

それが、大患難時代中の世界の実態なのです。

第2コリント6章1節から2節

私たちは神とともに働く者として、あなたがたに懇願します。神の恵みをむだに受けないようにしてください。神は言われます。『わたしは、恵みの時にあなたに答え、救いの日にあなたを助けた。』確かに、今は…

(第2コリント6章1節から2節)

「今は」と言ってください。「今は恵みの時、今は救いの日です。」だからこそ、聖書の言葉の中には緊迫感があるのです。「今」、まだ可能なうちに。あなたがまだ理解できるうちに。その後では、あなたは悪魔の計画によってあまりにも盲目にされてしまいます。そして、神にはこれらのことを止める力があることが分かっていますが、あなたは悔い改めず、神をあがめません。そのかわりに、あなたは神に対して汚しごとを言います。これには驚かされます。

数年前、私はイラン革命防衛隊の一員にインタビューする機会がありました。彼は西側に亡命し、ドイツに来ました。私はその時ドイツにいたのと、ドイツ語を話すこともあって、私は彼と同席して、報告書を書きました。彼が言ったことで私を驚かせたことが一つありました。私は、彼らのことについては多くのことを知っていますが、そのことは知りませんでした。彼は私にこう言いました。「一番下っ端の兵士からトップの司令官まで、全員が麻薬をやっている」彼らはみんな、麻薬をやっているのです。みんな、毎日、毎週、毎月、薬物を与えられているのです。イラン革命防衛隊に供給される薬物は不可欠なのです。彼らはその職務をこなすために、全員を完全にコントロールするので、彼らには、あなたが持っているあるものが必要だからです。みなさんも、ますます多くの国々が薬物を合法化しています。薬物を合法化する都市が、ますます増えてきています。かつて、私たちは「ノー (No!) と言え」と言っていました。今は、「どこ? と言え」と言います。信じられません。言っておきますが、世界は薬漬けになっています。そして、彼らはサタンが望むことを何でもします。サタンは彼らのことを手駒として使うんです。信じられません。

今、締めくくりに際して、皆さん全員を励ましたいと思います。押しのけないでください。拒否しないでください。今日が、そして今が、救いの日です。

お父様、御言葉をありがとうございます。あなたの御言葉は真理です。あなたの真理によって、私たちを^{きよ}聖めてください。私たちは、キリスト・イエスにあって私たちが持っている希望に感謝します。悔い改めを通してのみ、本当に救いを受け入れることができることに感謝します。世界中の異邦人のために、あなたが扉を広く開けてくださったことに感謝します。彼らが悔い改めて、神の子どもとなるだけでなく、王国の相続人となるためです。また、あなたと一緒に、この地上を治めるようになる民となるためです。私たちは、あなたが異邦人さえも、地上の祭司や王国としてくださったことを感謝します。お父様、イスラエルの救いも約束してくださっていることを感謝します。その時まで、私たちは、彼らが自分たちの反抗を理解し、自分たちの盲目さを理解するために、あなたが彼らの心の目を開いてくださることを祈ります。お父様、私たちはますます多くの人たちがヤシュア・ハ・マシアックを受け入れ、大患難を逃れることを祈ります。悲惨な、恐ろしい出来事がこの世界に降りかかるその時を。私たちはあなたに感謝します。そして私たちは、あなたを祝福します。すべての名にまさる名、イスラエルの聖なる方の御名、主の主、王の王の御名、神の子羊、ユダ族の獅子、インマヌエル、ヤシュア、イエスの御名によって、私たちは祈ります。神の民は皆、言います。

「アーメン」

お立ちいただければ、ヘブル語で、皆さんの上にアロンの祝福を宣言したいと思います。民数記6章24節から26節にあるものです。ヘブル語で行います。

主があなたを祝福し、あなたを守られますように。
主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。
主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。
(民数記6章24節から26節/ヘブル語)

主があなたを祝福し、あなたを守られますように。
主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。
主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。
(民数記6章24節から26節/英語)

人のすべての考えにまさる平安。平和の君、平和の主だけが与えることのできる平和。
今も、これからもずっと、ここでも、至る所でも。
イエスの御名によって。
アーメン。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2019.10.27 (Sun)